

まんがで
わかる!

メディカルスタッフの仕事⑦



聞く・話す・食べるの専門職

言語聴覚士

ことばは生きる力



監修 チーム医療推進協議会・一般社団法人 日本言語聴覚士協会

マンガ 田川 滋

もくじ

- まんが 4～31 まんが「言語聴覚士」
- コラム 32～33 言語聴覚士 活躍の場所
- 34～35 言語聴覚士ってどんな仕事？
「話す・聞く・食べる」のスペシャリスト
言語聴覚士が行う4つのサポート
先輩に話を聞きました
- 36 言語聴覚士になるには？
中学・高校時代に学ぶとよいこと
- 37 今後、地域で活躍する言語聴覚士が増加する
他の医療職との連携がより重要に
- 38 「チーム医療」って何？
チーム医療推進協議会とは？
- 39 チーム医療推進協議会が目指していること



青野さん
お母さん

ここまで
ほんとうに
よくがんばり
ましたね…

この病棟に
来たときのことを
考えると
信じられない
くらい…



そっ

あれは
1年前の
こと…



高校1年生の
青野一郎さんは
交通事故で
この病院に
搬送されました

頭を強く
打ったため

脳に大きな
ダメージを受けて
しまったんです…！



青野さん
退院
おめでとう
ございます！

みなさん
息子を
長い間
ありがとうございました…！



早く学校に
戻って
今までの
分を
取り返します
…！

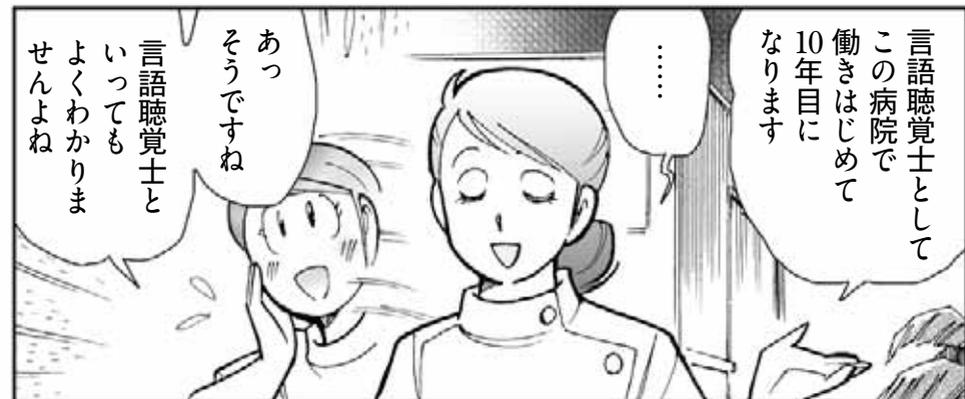


リハビリ
がんばったね
今度は
学校に行ける
ように
がんばろうね！
はい



※ 社会参加に向けた治療・訓練のこと





教育

ことばや発達の遅れのある子供を対象に、小・中学校の「ことばの教室」や特別支援学校などで指導をします。言語聴覚士指定養成校では、教員として言語聴覚士を目指す学生の教育・指導をしています。

働く場所

- 小・中学校 ●特別支援学校
- 言語聴覚士養成校 など



遊戯を活用して、障がいのあるお子さんへの対応を保護者と確認する

介護予防

地域で生活する高齢者が、生活機能の維持や向上に努め、日常生活の不活発な状態による心身機能の低下を予防し、できる限り自立した生活を送れるように支援します。

また、高齢者の難聴の対策や誤嚥性肺炎^{ごえんせい}の予防などのために、地域住民への講話や体操の指導などをします。



地域の高齢者に呼吸のゲームを指導する。目的は誤嚥性肺炎の予防

医療

病気やけがによって生じた聞こえや言葉の障害、飲み込みの障害などへの対処法を見つけるために検査・評価を行い、機能回復のための訓練や指導、助言、社会復帰に向けた支援をします。

働く場所

- 大学病院や総合病院のリハビリテーション科
- リハビリテーション専門病院
- 地域の診療所など



失語症の方のリハビリのため、情景画の内容を言葉で説明する練習

保健・福祉・介護保険

施設では、介護が必要な高齢者の自立を支援するためのリハビリテーションを担当します。通いの施設(通所施設)では、利用者の方が自宅で安全に生活できるように、コミュニケーションや飲み込み、認知機能の向上のためのリハビリテーションを担当します。

訪問リハビリテーション事業所では、利用者の自宅を訪問し、一人ひとりの生活にあった指導をします。



施設で生活している高齢者の食事をチェックし、必要に応じて指導をする

言語聴覚士は
だれと仕事を
するの？

医療専門職

医師、歯科医師
看護師
理学療法士
作業療法士
歯科衛生士など

保健・福祉 専門職

ケースワーカー
介護福祉士
介護支援専門員など

管理栄養士

教師

心理専門職

働く場所

- 介護老人保健施設 ●通所リハビリテーション事業所
- 訪問リハビリテーション事業所 ●特別養護老人ホーム
- 肢体不自由児施設や重症心身障害児施設 など

言語聴覚士って どんな仕事？

先輩に話を聞きました

豊かなコミュニケーションを支える仕事



安富 朋子
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

当院には脳血管疾患や脳外傷などで言葉が理解できない、うまく話せないといった方が数多く入院されています。私たちは、このような障害のある方々の気持ちに寄り添いながら、その方にとって最良のコミュニケーション方法を探求するとともに、それを家族やスタッフに伝えた

りして患者さんが再び笑顔を取り戻せるよう支援していきます。ときには、本人の気持ちをサポートし、代弁することも大切な役割です。6ヶ月間の入院の中では、心理的な支援も重要であり、次の生活を見据えたりハビリを行っていくことが求められます。



木伏 結
国見の杜クリニック

コミュニケーションの楽しさを伝えたい

私が普段接している子どもたちは、ことばの発達に遅れや偏りがあることでコミュニケーションに楽しさを抱えています。子どもたちとの訓練では「わかった！」「伝わった！」を引き出し、コミュニケーションを楽しんでもらうことを大切にしています。コミュニケーションとは思いの

伝え合い。言語聴覚士は子どもたちやご家族、そして周りで接するさまざまな人を支援し“コミュニケーションの成功体験”を重ねていけるようお手伝いしていきます。子どもたちが笑顔でいきいきとやりとりする姿をみるときが、一番やりがいを感じる瞬間です。

たくさんの笑顔に出会える耳鼻咽喉科

当科では難聴、言葉の遅れ、発音の誤り、吃音、声の異常、癌治療後の摂食嚥下障害など様々な問題を抱えた方に言語聴覚療法を提供しています。新生児から高齢者まで幅広い年齢の方が来院されます。聴力検査、補聴器の調整、ことばの発達や発音の指導・訓練、声の検査と発声訓

練、摂食嚥下訓練などの取り組みをしています。「聞こえた！」「伝わった！」「食べられた！」など“様々なできた！”を支えています。自分の気持ちが相手に伝わったときや、口から食べられたときの笑顔など数々の笑顔に包まれるやりがいのある仕事です。



森本 邦子
佐賀大学病院

「話す・聞く・食べる」のスペシャリスト

話す、聞く、表現する、食べる…。誰でもごく自然に行っていることが、病気や事故、加齢などで不自由になることがあります。また、生まれつきの障害で困っている方もいます。

こうした、ことばによるコミュニケーションや嚥下^{えんげ}に問題がある方々の社会復帰をお手伝いし、自分らしい生活ができるよう支援するのが言語聴覚士の仕事です。

言語聴覚士は医療機関だけでなく、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活躍しています。

言語聴覚士が行う4つのサポート

コミュニケーション

発声や発音の障害、後天性の言語障害（失語症など）のある方の症状や発生メカニズムを把握し、それに対応したプログラムを組み立てて指導を行い、機能改善を図ります。



絵を見て名称をいう練習

摂食嚥下

うまく飲み込めない、むせる、といった摂食嚥下障害に対して、原因の評価と、「咀嚼^{そしやく}して、飲み込む」ために必要な器官の運動や、飲み込む機能を高めるための訓練と指導を行います。



病室でゼリーを食べる練習

聞こえ

聞こえの障害（聴覚障害）のある方を相手に、検査や訓練、補聴器のフィッティングなどを行います。対象が言語獲得期にある幼児の場合は、「ことばの獲得」もサポートします。

子どもの発達遅れ

言語機能の発達が遅れている子どもに対して「ことばやコミュニケーションに関心を持たせる」、「語彙や文法、文字の習得を促す」などの指導を行い、「ことばの獲得」をサポートします。

今後、地域で活躍する言語聴覚士が増加する

今、日本は介護・障害者支援・子育て支援の充実した社会を目指しています。元気な方はもちろん、病気になっても、障害をもって、介護を受けても、地域に住むすべての人が元気で、その人らしく生活続けるため、言語聴覚士の力が必要とされています。



志和 智美
あづま脳神経外科病院

介護のいない身体づくりのために

高齢化が進む現在、地域で生活する高齢者が「元気に暮らす」ことが求められています。言語聴覚士はコミュニケーションや飲み込み、聞こえの視点から、高齢者の健康で元気な生活づくりのための支援を行います。そのため、

地域の介護予防教室などに参加し、聞こえやコミュニケーションの重要性についての理解と向上、安全に食べられる身体づくりなどの専門的活動を通して、高齢者が元気に過ごせる社会づくりのために貢献しています。

他の医療職との連携がより重要に



カンファレンスで情報共有をはかり治療方針を確認する

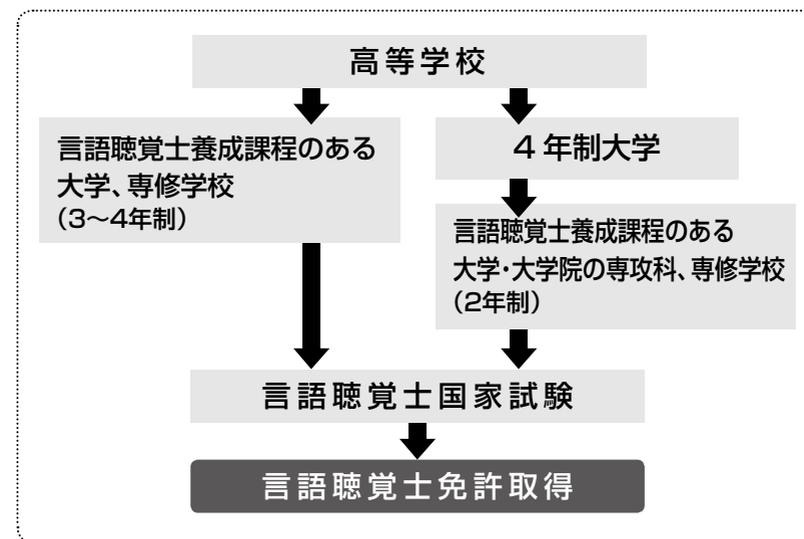


患者さんの病棟での生活場面について意見交換を行う

言語聴覚士になるには？

言語聴覚士の資格取得には、国家試験に合格しなければなりません。そのためには言語聴覚士の養成校に入学して学び、卒業時に国家試験を受験するのが資格取得のコースとなります。

高校を卒業した人が入学できる養成校には4年制大学と、3年制または4年制の専門学校があります。ほかにも、一般の大学を卒業した人を入学対象とする養成校もあります。養成校の情報は、日本言語聴覚士協会のホームページでチェックできます。



中学・高校時代に学ぶとよいこと

言語聴覚士は子どもから高齢者まで、幅広い年代の患者さんと接する職業です。日ごろからさまざまな人と接し、コミュニケーションをとることに慣れておくと良いでしょう。

また、いろいろなことに興味や関心をもって行動し、感動や共感する体験を増やし、自分自身を豊かにすることが大切です。人と話をしたり、コミュニケーションをしたりすることが好きという方が言語聴覚士には向いています。

◀◀ 「チーム医療」って何？ 詳しくは次のページへ

チーム医療推進協議会が目指していること

今後、各メディカルスタッフの専門的知識や技術の進歩を土台としながら、各職種が連携して「チーム医療」を実践することで、患者さんが中心の医療を推進する必要があります。そのために次の4つを目指しています。

1 患者中心の医療の推進

患者さんに尊厳をもって接します。患者さんが置かれている状況やその考え方を配慮し、患者さんご家族の意向を反映した医療を提供します。



2 高いレベルの専門性の推進

専門職として、高いレベルの知識と技術の習得に努めます。専門的技術の標準化を進め、安全で効果的な業務を行います。



3 情報共有の推進

常にチームとしての方針を共有するため、カンファレンス等に積極的に参加します。業務を適切に記録・保管管理して、情報の漏えいに最大の注意を払います。



4 チーム医療の推進

他のメディカルスタッフの専門性に敬意を払うと同時に業務にも関心をもち、チームの統合性を目指します。自分の専門性を伸ばすだけでなく、協働意識も育てます。



あなたもメディカルスタッフを目指して、チームの輪に入りませんか!

「チーム医療」って何?

病院では、様々な職種のメディカルスタッフ（医療専門職）が働いています。その人たちが連携して、専門スキルを発揮しながら治療やケアをすることを「チーム医療」と呼びます。

「チーム医療」を推進する チーム医療推進協議会とは?

チーム医療を推進するために平成21年にスタート。
現在では医療関係17職能団体が参加しています。

日本医療
社会福祉協会

日本医療リンパ
ドレナージ協会

日本栄養士会

日本看護協会

日本義肢装具士
協会

日本救急救命士
協会

日本言語聴覚士
協会

日本作業療法士
協会

日本歯科衛生士会

日本視能訓練士
協会

日本診療情報
管理士会

日本診療放射線
技師会

日本精神保健
福祉士協会

日本理学療法士
協会

日本臨床衛生
検査技師会

日本臨床細胞学会
細胞検査士会

日本臨床心理士会

詳しくは各団体のHPをご覧ください